

苗名小屋日記 第17号（1979年）、故鴨志田さんの日記

昭和54年8月25日（土） 8:15am

もの凄い集中豪雨。溝畑さん、中川さん、棕代さん、渡部さんらを初めとして、周辺Wの人達どうしているだろう。

心配だなあ。

僕は22日から小屋に居ます。暇だから今までどのように過ごしたかをちょっと。

22日 4時過ぎのバスで小屋へ。その前に五八木荘へ寄って鍵を借りようと思ったら『今、鍵を持っている人が仕事に出掛けているので、今日は便所からでも入って貰って、明日にでもまた来てくれ』と言われ、ガーン！

しかし小屋に来てみるとどういう訳か鍵は開いていた。（不思議）

宿泊者 僕と一緒に来た知人と二人。

疲れていたのので麻婆豆腐その他豪華な食事をしてすぐ寝る。

23日 朝目覚めると、昨夜来の雨がかなり激しい。

それでも昼頃には止む。

1時35分のバスで帰る知人を送り、僕は五八木へ洗濯、水汲み、洗面に出掛ける。

今日は多分、1人で泊まることになるだろうと、早くから、若干、アルコール飲料を飲み、霧の中、伐採された辺りで夕涼みをしていると、何と、山の格好をして溝畑、中川、渡部、棕代の四先輩が来るではないか。

何でも雨がひどかったのので、黒姫は諦めて、取り敢えず小屋へ来たらしい。

おかげで天麩羅の夕食に混ぜっこしてもらい、淋しくない夜を過ごした。

しかし、ねずちゃんが全く凄い活躍振りだ。

8/24 は5時起床。中川さんらが火打方面へ出掛けると言うので、7時前、笹ヶ峰までお見送り。

天気曇。

帰りは牧場で野いちごを食べ、その少し先からダンプに便乗して小屋へ。

9時過ぎ着。

ゴミ焼きをやって、11時前、苗名滝へ行くべく林道を下る。

杉野沢まで1時間以上かかった。昼食用にパン3斤とコーラ1本を買い、いざ滝へ。

途中、変な数十人の集団が前を歩いている。

話を聞いていると、言葉はなんとドイツ語だ。

長い間忘れていた大学の事を思い出し不快になる。

苗名滝は水量がもの凄く、仲々大したモノだ。

しかし水が茶色いのは少々ガッカリした。

ついでだからと、自然歩道とかを歩いて二の滝へ、こちらも凄い。

しかし、苗名滝～二の滝間は道が荒れかかって、人が入っていないようだ。
案内図によると、そのまま西方発電所を経て笹ヶ峰へ行ける様になっているのだが、道は全く無い。
滅茶苦茶な藪を強引に30分以上かかって、滝を高巻いて裏側へ行ったが、その先はさすがに行けなかったのだ、残念。
しかし県も無責任なもんだ。案内図に有るはずの道が無いんだから。
走るようにして杉野沢へ戻り、最終バスに飛び乗って小屋へ帰る。
案の定、誰も来ておらず、僕1人淋しい一夜を過ごす。
しかし、たまには1人というのも良いもんだ。
ところで、今降っている雨は、何とかなんないのかなあ。始発バスの時間が過ぎても誰も来ないところを見ると、バスは運転されているのだろうか。今日あたり誰か来ても良さそうなもんだけど。

以上

22nd Kamo2年 (22nd 鴨志田)